



園だより 5月号

令和7年4月25日

中野区立ひがしなかの幼稚園

園長 宮本 実利

<https://fa.fureai-cloud.jp/nk-higasinakano-k/>



『心と体を動かして探究する楽しさを』

園長 宮本 実利

園庭では、なかよし池のそばの赤いツツジとバラの花は色鮮やかに、砂場の上では藤の花がひっそりと、園庭の木々の緑は眩しく輝き、活気あふれる自然の力を感じます。

子どもたちも少しずつ新しい環境に慣れ、自分なりの動きや気持ちを表すようになってきました。4月に入園した3歳児は、「おうちへ帰る」と、おうちの方の服の袖をぎゅっと掴んだりしていた緊張の力も抜けて、身近なものに先生と一緒に関わって、おもしろいと思うものを見つけ始めています。進級を楽しみにしていた4歳児の中には、進級の喜びと同時に不安もあり緊張した面持ちでスタートした幼児もいましたが、今では安定して今までのように意欲的にもものやひとに関わり遊びも楽しめるようになりました。中型積み木でおうちを作ったり、ハサミやクレパスを使って製作したりして、笑顔溢れる姿が見られます。5歳児は期待と自信に満ち溢れ、新しいことにも張り切って取り組んでいます。ホールで大型積み木を組んでごっこ遊びをしたり、池のオタマジャクシを繰り返すくって見せ合ったり、グループの友達と鯉のぼりを作ったり動物当番をしたりと、憧れのほし組の生活を一つ一つ楽しみながら進めています。

先日、池でオタマジャクシをすくっていた5歳児が、オタマジャクシが池に落ちた桜の花びらに群がっている様子を見て「さくらの花を食べてるのかな」と言うと、「でも、葉っぱは食べないね」「好きじゃないんじゃない?」「(葉っぱは)硬いから?」と会話したり、「この石に集まっているね」「本当だ。いっぱいだね」「どうしてこの石がいいのかな?」「お日様が当たって暖かいのかな」等、オタマジャクシの動きをじっくり眺めながら思ったことや気付いたことを言葉にする中で、その場にいる友達と考えたことを出し合い自分なりの考えをもち予測する姿が見られます。知的好奇心が育まれ、意欲や探究心が高まっていく要素が、遊びの中にはたくさんあります。

子どもたちは、このように遊びの中で、「これは何かな?」という疑問をもったり、自分なりに今までの体験や気付きと結び付けて考えたりしています。いろいろなところに興味・関心、好奇心・探究心が生まれています。そして、直接、見て聞いて触って嗅いで、様々な感覚を通して全身で味わう中でこそ、感性が磨かれ、自分なりに向き合うことができます。まさに自然は、私たちに全身を通して感じ取ることを促してくれ、感覚や感性を豊かにしてくれます。

幼稚園では、子どもたちが遊びや生活の中で「なんだろう」「どうしてかな」ということを受け止めて、子どもたちの「やってみたい」「知りたい」「こうしてみよう」につなげ、関わりを広げ深め楽しめるようにしていきたいと思えます。今年度は、子どもたちの探究することを楽しむ姿を支えていく教師の関わりや環境づくりをテーマに、教育の充実を目指して研究を進めてまいります。様々な子どもたちの姿をしっかり受け止めながら、その時々学びの芽を大切に育てていきたいと思えます。

日中は、体を動かすと汗ばむようになってきました。まだ、体が暑さに慣れていないこの時期は、子どもたちに衣服の調整や水分補給を促し、気候や気温に応じた暑さ対策をして健康を守っていく必要があります。ご家庭でも睡眠、食事、排せつ等、生活習慣に配慮し、うまく暑さに対応していけるよう体づくりにご協力をお願いいたします。

保幼小中連携教育



中野区では、保幼小中連携教育を進め、全ての子どもたちの就学・進学に伴う不安の解消を図り、子どもたちが安心して学び、確実に「生きる力」を身に付けることを目指しています。連携教育においては、保育園・幼稚園・小学校・中学校それぞれの良さを理解し、15年間の学びの連続性を意識して教育・保育を行っていきけるよう、さまざまな取り組みをしています。

ひがしなかの幼稚園では、中野東中学校区の中野東中、塔山小、谷戸小、その他、桃園第二小、白桜小、地域の保育園と連携して、研修会や協議会を行っています。今年度の園だよりでは、そのような他校種との連携についてお伝えいたします。

「中野区就学前教育プログラム」は、就学前教育・保育施設同士のつながり、小学校とのつながりをまとめたものです。理論編、実践編とありますが、ぜひ写真やイラスト等で分かりやすい、理論編の概要版リーフレット(右記参照)からご覧になってください。





保育のねらい

<3歳児> ○自分の好きな遊びを見付けたり、教師と関わったりして、安心して幼稚園で過ごす。

教師と一緒に砂場で山やごちそうを作ったり、テラスにいるオタマジャクシをすくったり、粘土やままごと遊びをしたりと、少しずつ幼稚園での「楽しいこと」が増えてきました。これからさらに、一人ひとりが自分なりに見付けたことを楽しみ、安心して過ごせるようにしていきます。

また、教師と一緒にかばんや帽子をロッカーにしまったり、自分で水筒をかごに入れたりしています。身支度の仕方を繰り返し丁寧に伝えていき、「できた」という気持ちや「困ったときやできないときには先生が助けてくれる」という安心感をもてるようにしていきたいと思います。



<4歳児> ○自分の好きな遊びを見付けて遊んだり、同じ場にいる友達と関わったりする楽しさを感じる。

○一日の園生活の流れが分かり、自分で身の回りのことをしていこうとする。

中型積み木で病院や家を作ってごっこ遊びをしたり、なかよし池のオタマジャクシをすくったりするなど、一人ひとりが気に入ったものに関わる姿が見られるようになりました。また、こいのぼり作りなど教師が提示した新しい遊びに関心をもち、同じ場にいる友達に親しみを感じる姿も見られます。長い連休明けには、不安を感じることもあるかと思いますが、4月にしていた遊びをしたり、教師と一緒に体を動かしたりしながら、自分のしたいことを楽しんだり、同じ場にいる友達と触れ合ったりできるようにしていきたいと思います。

また、身の回りの始末や生活の流れが分かり、少しずつ自分で行おうとする姿が見られます。引き続き、弁当の準備や遊具の片付けなどを自分でしようとする気持ちをもてるように援助していきます。



<5歳児> ○自分なりのめあてをもって遊んだり、自分たちで生活を進めたりする楽しさを感じる。

○身近な自然に親しみをもったり、体を動かして遊ぶ心地よさを味わったりする。

保育室と園庭を行き来して遊ぶことにも少しずつ慣れてきて、オタマジャクシをすくったり、保育室のままごと遊具を使ってみたりして、興味のあることに自分から関わって遊んでいます。また、2階のテラスから園庭を見たり、年長組になると使える大きなシャベルや非常滑り台で遊んだりすることを楽しみ、進級の喜びを味わっています。興味をもった遊びを繰り返す中で、自分なりにめあてをもち、試したり、挑戦したりして遊ぶ楽しさを感じていけるように援助していきます。

こいのぼり作りや誕生会プレゼントの藍染めなど大きい組としての活動にも期待感をもって取り組んでいます。動物当番や夏野菜の栽培にも取り組み、見通しをもって自分たちの生活を進めていけるようにしていきます。

さらに、園庭で砂や泥の感触を楽しんだり、泥団子を作ったり、学級のみんなで新宿御苑遠足に出掛けたりして、戸外で遊ぶ心地よさを味わえるようにしていきます。